

寄附のご案内

ご寄附をいただいた寄附金は、大学が行う事業の一層の充実のための資金とさせていただきます。ご寄附いただく個人、法人、団体等が使途を希望される場合は、そのご意向に沿って有効に活用させていただきます。皆様の格別のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



QRで確認

● 寄附の目的

- (1) 教育、研究活動、地域貢献活動の充実
- (2) 学生支援の充実
- (3) 施設・設備の整備
- (4) その他大学運営の向上

● 寄附の目的

インターネットからのお手続き

決済方法は、クレジットカード、コンビニエンスストア、Pay-easyの中から選択できます。

書面によるお手続き

所定の様式によりお申し込みの上、本学から送付する書類に基づきお振込みください。

福知山市のふるさと納税による寄附

設置団体である福知山市のふるさと納税制度の区分には「福知山公立大学の教育研究環境の整備や教員や学生が実施する研究活動、大学生への奨学金事業への寄付」が設けられています。寄附をされた方には、金額に応じて福知山市の特産品の中から希望されるお礼品が贈呈されます。



QRで確認

古本募金（きしゃぽん）による寄附

読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定金額が福知山公立大学に寄附される制度です。



QRで確認

—寄附の方法—

宅配便によるご寄附

ご指定の時間にご自宅まで宅配業者が受け取りに伺います(5点以上で送料無料)。

回収ボックスのご利用

学内または福知山市役所(1階ロビー)に設置している回収ボックスに入れてください。

NEW FACE どうぞよろしく！ ● 新任教員紹介



渋谷 節子 教授 SHIBUYA, Setsuko

この度福知山に参りました。山に囲まれて自然が豊かな福知山の、広い空と暖かい人の心が気に入っています。どうぞよろしくお願致します。

専門分野 文化人類学、東南アジアの社会と文化、多文化共生

現在の研究テーマ

- 多文化共生社会の可能性
- 近畿地方の外国人労働者と地域住民のより良い関係づくり
- 福知山をはじめ北近畿地方と外国との文化交流
- アジアの近代の社会変化と文化変容



山田 篤 教授 YAMADA, Atsushi

福知山の地で、様々な情報技術を活用して地域社会や市民生活に役立つ活動を行うことができると考えています。よろしくお願致します。

専門分野 人間・社会情報学、自然言語処理、音声対話処理

現在の研究テーマ

- 日本語テキストの可視化
- 音声認識、音声合成を用いた音声対話システムの構築
- 日本語コーパスの整備
- XMLを用いたメタデータの整備



井上 直樹 准教授 INOUE, Naoki

兵庫県出身で、大学卒業後は大阪府在住です。福知山や北近畿の良い所を全国から集まった学生とともに再発見していきたいです。

専門分野 会計学、監査論、公会計、公監査、公共経営

現在の研究テーマ

- 公共部門におけるマネジメントとガバナンスの機能強化を企図した内部監査の研究
- 執行機関からガバナンス機関に対する情報提供のあり方についての研究 ほか



大谷 杏 准教授 OTANI, Kyo

福知山について学び、地域の特性を活かしたまちづくりに教育の分野で貢献していきたいと考えておりますので、よろしくお願致します。

専門分野 生涯学習、言語教育、多文化共生

現在の研究テーマ

- 社会教育施設の有効活用
- 多文化共生のまちづくり
- 外国人児童・生徒への対応

The University of
Fukuchiyama PRESS

2018 December Vol.01

発行：公立大学法人 福知山公立大学

皆様の忌憚のないご意見をお寄せください。お待ちしております。ご連絡は右記までお願いします。

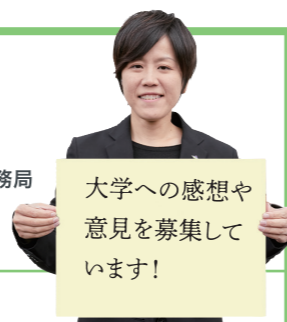
● ご意見、ご感想は

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370 福知山公立大学 事務局

Tel. 0773-24-7100 Fax. 0773-24-7170

E-mail info@fukuchiyama.ac.jp

<http://www.fukuchiyama.ac.jp>



大学への感想や意見を募集しています!

The University of Fukuchiyama PRESS

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

創刊号
2018.12

● 福知山公立大学 広報誌



福知山市三和町

▶ 福知山公立大学の広報誌が誕生、大学の取り組みや学生の活動などを紹介していきます。

創刊号となる本誌では、本学が特色とする“地域協働型教育研究”の取組みの中から福知山市三和町で活動する教員と学生を特集します。教員が専門分野をどの様な形で地域に活かすのか、そこで学生が何を学んでいるのか、そして、受け入れた地域にはどのような変化があるのか、“地域協働型教育研究”の可能性を

感じていただき、協働の輪が更に大きくなることを願います。

広報誌では、今後も「市民の大学、地域のための大学、世界とともに歩む大学」を体現する姿を皆様にお伝えしていきたいと考えています。

TOP INTERVIEW

福知山公立大学の取り組みなどをご紹介する広報誌を創刊することになり、まず井口和起学長が皆様方から寄せいただいている日頃のご支援に感謝しつつ、開学からの進捗状況や、これからの方向性などについてお話しします。

▶ 地域経営学という新しい学問領域を体系化

本学は2016年の開学時、50名だった入学定員数を次年度より120名に増やしました。志願者は日本全国から集まっており、今年度も定員を割ることなく、順調に学生数は増加しています。ただし、地元の北近畿(10市4町*)からの志願者数はまだ伸びていないので、地元の高校生たちへの周知について今後さらに力を入れていく所存です。

1年目の成果としては、地域経営学部の体系的なカリキュラムを完成させたことが挙げられます。福知山を「学びの拠点」とし、「地域に根ざし、世界を視野に活躍するグローバルリスト」の育成を目標に、地域経営学部というまったく新しい学部を立ち上げました。当初は手探りのところもありましたが、先生方の尽力もあり、カリキュラムを一応、確定できました。2年目には、地域経営学について、「学問」としての体系化の検討をすすめる、その研究成果を一冊の本にまとめることもできました。次のステップとして、これも本学の学びの柱である「地域協働型教育」の在り方を検討しています。

また、開学2年目に、大学基準協会という第三者機

関の認証評価を受け、大学基準適合認定証をいただきました※2。「適合」の評価は当たり前のことですが、前身校の前回の調査では「不適合」と判定されており、これも新しく生まれ変わった福知山公立大学のひとつの成果だと自負しております。

学生の課外活動に目を向けると、学生が主体的に数多くのサークルを立ち上げ、現在その数は36団体に上ります。硬式野球部は京滋大学野球連盟・2018年度秋季リーグで良績を収め、1部昇格を果たしました。



▶ 情報学部情報学科(仮称)の設置を構想中

2017年5月、北近畿地域連携会議が発足しました。本学をはじめ、北近畿にキャンパスを設置する京都工芸繊維大学、兵庫県立大学の3大学と、京都北都信用金庫、但馬信用金庫、JR西日本福知山支社さんなどの金融、商工農業分野など民間企業の方々と大学とが連携した組織で、北近畿地域振興のシンクタンクの機能を果たすことをめざしています。昨年度実績としては、高齢者の運転免許返納を受けた地域社会の新たなシステム構築における具体策などを提言しました。今後も同会議の活動を拡充していくとともに、北近畿

- ※1 丹波地域(福知山市、綾部市、丹波市、篠山市)、丹後地域(舞鶴市、京丹後市、宮津市、与謝野町、伊根町)、但馬地域(豊岡市、朝来市、養父市、香美町、新温泉町)
 ※2 認定期間は2018年4月1日から2025年3月31日まで(7年ごとの更新)。

の各地域との連携を深めていければと考えております。一方で、より大きな視点からの連携・協力も不可欠であり、2018年10月には京都府と包括協定を締結しました。引き続き、地元の各市町とも協定を結び、地域の人材育成・定着や振興・情報化などに努め、地域への貢献を探り、実践していきます。

そして、地域連携とともに今私たちが進めているのが、情報学部情報学科(仮称)の設置準備です(2020年開設予定)。情報技術は私たちの暮らしに不可欠となり、それを活用できる“人財”が求められています。新学部は情報技術を学んで、あらゆる産業分野や医療・介護・福祉分野などに応用でき、地域の人々の暮らしと地域振興に貢献できる“人財”を育てるとともに、北近畿地域の高校生の進学の実験の幅を広げることをめざしています。既存の地域経営学部や連携している京都工芸繊維大学と協働して、より広範で多様な地域の課題に応えられる文理融合の教育研究を促進したいと思っております。

▶ 地域のみなさんも「大学をつくる主人公」

地域のみなさんの要望を理解するには「想像力」が、課題解決の提案には「創造力」が必要です。学生には本学での学びを通して、豊かな想像力と創造力を身につけてほしいと考えています。

地域のみなさんには、長い目で、育てるつもりで大学に接していただければ幸いです。育てるというのは見守るだけではなく、叱ることもあり、注文をつけることでもあり、同時に褒めることでもあります。大学が地域のお役に立てたときに褒めていただければ、学生や教員の励みになります。一方で、課題がある場合は、ぜひ本学にご相談ください。これからもみなさんとともに学び、実践し、地域を盛り上げていければと思います。

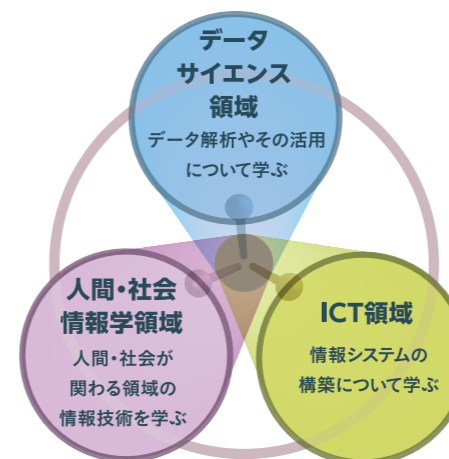


情報学部情報学科(仮称) 学びの特色

- ① 情報活用の事例から原理に近づき専門性を高める帰納的な教育
- ② 高度な知識修得のための3つの専門領域
- ③ 「地域協働型教育研究」を具体化した実践的な学修を中心としたカリキュラム

各領域の事例から専門的な学修を深める

3つの専門領域



地域での現地調査を通じて、理論との結びつきを理解する

地域協働型実践教育

《実践教育の具体例》

- 観光** ・スマートフォンを使った観光案内システム開発(位置利用ゲームやAR案内等)。
 ・プロジェクションマッピング、観光案内アプリ等の開発。
- 商品開発** ・電子機器と木材製品を組み合わせた商品開発。
 ・小型風車による風力発電の回路設計やソフトウェア開発。
- 農業** ・農業用ハウスの温度制御システムの構築。
 ・作物の病気の特定とその防除、選果機への情報技術の組み込み。

※ 記載の内容は予定であり、変更する場合があります。



福公大レポート

持続可能な地域経営を考え、実践する

三和町の農業問題にアプローチ。
学生の現場への参入が、地域の方々への
いい刺激になっています。

農業経済学・農業経営学・農業政策論
などが専門で、福知山公立大学に赴任後
は、主に三和町の農業問題にここ2年間ほ
ど関わってきました。まずは農業の現場を訪
れ、「丹波みわ活性化協議会」や営農組合
の会議にも参加。少しずつ地域の方々と関
係性を築いていくなかで、さまざまな活動に取り組んできました。

学生の学びの場としても機能し、農業見学・体験をはじめ、工業団地や史跡などの視
察・調査を実施。その他「三和ふれあいフェスティバル」での模擬店出展や地域の秋祭
りへの参加など、学生が地域に入っていきことで市役所や地域協議会の方々もより協
力的になってくださり、ともに地域を盛り上げていく雰囲気は高まってきています。

また、三和町の耕作放棄地を利用し、栗園を開きたいという青年実業家の話があり、
私が仲介役となって土地の契約などをサポートしました。荒れていた土地が蘇るととも



暗きょ敷設作業を手伝う様子

に、将来的には高齢者の雇用の場になるこ
とも期待されます。同様に、新規就農者が耕
作放棄地を活用して、ぶどうや栗の栽培を
始めたケースも。その暗きょ敷設作業を学
生がお手伝いするなど、地域活性化の現場
で学生たちも多くのことを学んでいます。

現場に入り、地域の人々と同じ目線で考える。



三和町友淵集落では、同じ地名を持つ大阪市都島友淵集落
とつながりがあり、大阪での農産物の直売、三和町での農業
体験などの交流を続けてきた。ただ、友淵集落の高齢化・人
口減少などで、三和町側の受け入れ体制が整わなくなりつつ
あるという問題も。そこで、「菟原（うばら）地区全体で受け入
れを図るなど、近隣地域との連携も今後強化していければと
考えています」と矢口教授。現場に入り、地域の人々と同じ目
線で考え、解決策を探る「地域協働型教育研究」を今後も展
開し、持続可能な地域経営を実践していく。



地域経営学部 矢口 芳生 教授

頑張る福公大生

▶ 学びの成果を住民のみなさんの前 で発表

1年次の矢口ゼミのフィールドワークで訪
れたのが、三和町友淵集落でした。以降、何
度も現場に足を運び、地域の歴史や文化、
現状に触れるとともに、農業体験をはじめ、
さまざまな活動にも取り組みました。そのな
かで感じた問題意識などをレポートにまと
め、学生同士でのディスカッションも実施。
その成果を現地報告会として、住民のみな
さんの前で発表しました。



現地報告会を開催し、研究活動の成果を地元の人
に向け学生が発表。

▶ 「三和ぶどう」を使ったジュースの ラベルを制作

現地で活動する際にブドウ農家の方から
相談されたのが、「三和ぶどう」を使った
ジュースのラベルの制作です。規格外で捨て
られるブドウの有効活用として3年前から
ジュースづくりを始められており、その新ラ
ベルのデザインを私が担当することになりま
した。ブドウ農家の方や市の地域おこし協力
隊の方と打ち合わせを重ね、新ラベルが完
成。ブドウの粒を意識した手書き風の丸文
字と絵で商品名



を描いたデザ
インで、完成
品を手にした
ときはもちろ
ん、依頼者
の方が喜んで
くださったの
が何よりうれ
しかったです
ですね。

学生VOICE



地域経営学部地域経営学科2年
上埜 妙子 さん
長野県飯山高等学校出身

▶ 三和町の住人となり、より深く地域 に関わっていく

2018年10月、演習などでお世話になった
縁もあり、三和町に移住しました。故郷の木
島平村（長野県）に雰囲気似ていて、初め
て訪れたときに親近感がわいたのが理由の
ひとつ。また、入学後にさまざまな実習や課
外活動を通して、「大自然のなかで自分でも
畑を持ちたい」と思ったのがきっかけでし
た。自治会長の嘉寺さんのご紹介で一軒家
の離れを借りることができ、今後は今まで以
上に地域の方々との交流も深めていければ
と思います。



友淵自治会会長 嘉寺 好秋 さん

友淵集落は現在人口96人、しかもその半分近くが70
歳以上のいわゆる限界集落です。特産のぶどうも、煩
雑な農作業をこなせるだけの人手がおらず栽培の継続
が困難な状況に陥っています。昨年大学と交流が
始まり、若い学生の方々の活力を様々な面でいただ
けることに大きな期待をしています。上埜さんのように集
落に若い人がもっと集ってくれて、集落が活性化すれば
いいですね。

TOPICS

1

地域への学生の自主的な取り組み「学生プロジェクト」を大学が支援しています。 地域と連携した様々な企画が学生主体で発進!



「学生プロジェクト」は、地域と連携する学生の自主的な取り組みの中から大学がプロジェクトとして選定し、支援する制度です。

例えば、子どもたちの居場所づくりを目的に運営する「ふくちやま子ども食堂」。食事の提供や学習支援を行う子ども食堂の運営を企画しました。地元の食材に親しみをもてるように、食事にはできる限り地域の食材を使用しています。一時的にでも子どもを預かることで保護者の育児負担の軽減になり、また保護者同士のネットワーク作りにも繋がることが期待されます。

また、医療福祉経営学科の学生で構成するプロジェクトでは、高齢者と医療に関する研究を行っています。福知山市の協力を得

て市内の高齢者を対象にアンケートを実施し、健康寿命や日々の満足度と、生活習慣や環境などの関係性を明らかにした上で、高齢者の日々の過ごし方を見直す機会を作ることを目的に研究を進めています。

このほか、今年も多数の学生主体の企画が学生プロジェクトとしてスタートしています。



「ふくちやま子ども食堂」の様子
fukuchiyama.syokudo

TOPICS

2

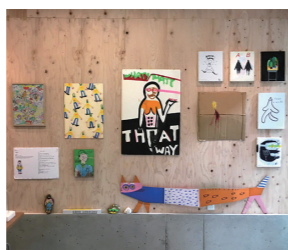
もう利用されましたか？ いつでもお気軽にお立ち寄りください。 まちかどキャンパス「吹風舎」がオープン!

まちかどキャンパス「吹風舎(ふくちしゃ)」は、大学の教職員や学生と地域の人々が集い、交流する「いえ(舎)」をコンセプトに、2018年5月に福知山市の新町商店街にオープンしました。多様な人々が集まり、話し合いや共同作業を通して学び合い、持続可能な地域社会形成の担い手となる人を育てる拠点となるために、教員や学生が様々な企画を考えています。

本をきっかけに人が集い、繋がりの場となる新しい図書館の形「まちライブラリー」、地域で活躍するクリエイターや作家の作品を展示する「まちかどギャラリー」などもその一つです。学生がコーヒーを淹れる「想て成しかふえ」(おもてなしかふえ)は隔週木曜日(9~12時)にオープンしており、地域の憩いの場から新たな繋がりが次々と生まれています。



想て成しかふえの様子



まちかどギャラリー



まちライブラリー

お問い合わせ先

福知山公立大学 まちかどキャンパス「吹風舎」
〒620-0028 福知山市字上新7番
TEL:0773-45-3087
Email:machikado@fukuchiyama.ac.jp

TOPICS

3

大学生消防防災サークルが結成されました。 「福知山公立大学FAST」が活動しています!



由良川水系総合水防演習



浸水した住宅の家財道具を搬出する様子



学生が主体的に防災を考え、行動するための団体「福知山公立大学FAST」は、「キャリア演習(担当:杉岡准教授)」において日本地方政治学会・地域政治学会現代政治学生コンペで「福知山における防災まちづくり政策の展望～防災と言わない防災による結果防災のススメ～」(審査員特別賞を受賞)を提言し、その内容を実現するために生まれた団体です。2018年7月の豪雨災害では、被災した地域に入り浸水した家具の運び出しを行うなど復旧活動に参加しました。

福知山市で毎年開催されている由良川水系総合水防演習に参加した際には、パネル展示を行って水防思想の普及活動を行いました。今後も自治体や各種防災団体などと連携しながら、防災活動を展開していく予定です。



TOPICS

4

持続可能な地域づくりに向けて教育研究に取り組みます。 京都府との包括協定を締結!



京都府と福知山公立大学との
連携・協力に関する包括協定調印式

2018年10月、本学は京都府との連携・協力に関する包括協定を締結しました。双方の包括的な連携を深めることにより、それぞれの資源や機能等の活用を図り、幅広い分野で協力して地域社会の発展に寄与することを目的としています。協定では(1)人材育成・定着(2)地域振興・情報化(3)経済発展(4)観光振興(5)保育医療福祉の向上、を連携・協力事項に定めており、持続可能な地域づくりに向けて長期的な視野で教育研究に取り組む予定です。

開学以来、京都府とはこれまでも舞鶴港に寄港するクルーズ船観光客の動向調査や福知山

市の弘法川調整池利活用プロジェクトなど50以上の事業で連携してきました。本協定の締結により、京都府北部地域でのフィールドワークやインターンシップ先の拡大、京都府職員の講師派遣など、教育研究活動の更なる充実が期待されます。



包括協定調印式の様子